

第6章 自然と調和する住みよいまち 第5節 水道

所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費				成果				評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)	
			会計	投入コスト		活動実績(R2)	成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)		
経営課	実施計画ランク	事業の種類別	R1予算現額	R1決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	債券運用、旧水道庁舎用地利活用及び印刷物広告は、継続して収入を得ることができ、健全な経営に寄与した。 未利用地利活用については、大きな売却益は得られなかったものの、これまでは必要だった維持管理費用や荒天時の土のう設置等の対応が不要になり、また、令和3年度に売却予定の未利用地の地歴調査を1年前倒して実施できた。 一般・特別会計に係る基金との共同運用については、平成30年度末から延べ3箇年度に渡る運用としたことで、大きな運用益を得ることができた。	R2年度に改善した点	16. 平和と公平をすべての人に			
	優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	6,944千円	6,927千円	①債券運用益 ②未利用地利活用売却益 ③旧水道庁舎用地利活用賃付料 ④検針票広告収益 ⑤定期預金運用益	収益額 ※令和2年度から、一般・特別会計に係る基金との共同運用による運用益も含めることとした。	財源として収益を確保することを目標とする。	R2年度に改善した点							
	根拠法令	地方公営企業法、地方公共団体の健全化に関する法律 地方自治法第235条の4、地方公営企業法施行令第168条の6 所沢市上下水道局印刷物広告の掲載に関する要綱	R2予算現額	R2決算額(見込み)							1,480千円			579千円	未利用地利活用については、立地条件などの理由から有効活用が難しく20年以上売却できなかった南部浄水場関連の土地を売却できた。 印刷物広告収益については、周知に努めたことにより応募者が増え、その結果、競争性が高まり収益が増えた。
	自主財源確保促進事業(長期的債券運用・未利用地利活用・旧水道庁舎用地利活用・検針票広告)	事業の具体的な内容及び目的	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	実績	R1目標	R1実績	R2目標値が未達成の理由・分析			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み				
	水道事業の資産を有効活用し、自主財源の確保により経営の活性化を図り、企業経営の健全化に努めるものである。 ①長期的債券の購入・運用 ②未利用地の売却・賃付け ③旧水道庁舎用地の賃付け ④検針票を活用した企業等の広告掲載 ⑤一般・特別会計に係る基金との共同運用(定期預金)	0.62人	0.00人	10,740千円		17,648千円									
期間	H29~	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	①721千円 ②23千円 ③10,320千円 ④182千円 ⑤1,454千円	R2目標	R2実績	目標達成済	債務運用については、金利動向を注視し、年利0.55%以上の財投機関債(社会貢献債、環境債)が発行されれば購入する。 未利用地については、残り2件について1件の売却と1件の賃付の実現を目指す。 印刷物広告については、今後も引き続き周知に努め、競争性の向上を図る。							
		5,153千円	0.00人		R3目標			評価者	経営課長 田島 幸雄	どのように貢献したか	印刷物広告の周知を図り、自主財源の確保に努めた				
窓口サービス課	実施計画ランク	事業の種類別	R1予算現額	R1決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	口座振替率の実績からは、一定の成果が継続して得られていると考えられるが、目標値が未達成であった。 今後も収納費用の削減に向け事業に取り組んでいく。	R2年度に改善した点	12. つくる責任 つかう責任	16. 平和と公平をすべての人に		
	優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	628千円	628千円	①納入通知書戸数 ②口座振替登録戸数	口座振替率 (口座振替収納件数/収納総件数×100)	R2目標値が未達成の理由・分析	R2年度に改善した点							
	根拠法令	地方公営企業法・水道法・所沢市水道事業給水条例	R2予算現額	R2決算額(見込み)							504千円			309千円	上半期の契約者約3,700人に対し、“ところざわの水”紙パックを抽選景品として、個別通知(申込用紙・返信用封筒)を送付した。
	口座振替促進事業	事業の目的及び具体的な内容	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	実績	R1目標	R1実績	R2目標値が未達成の理由・分析			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み				
	収納に伴う費用が安価である口座振替への加入を促進し、中長期的に費用の削減を図ることを目的とする。 ①口座振替登録者を対象とした景品抽選の実施(申込用紙・返信用封筒送付) ②各取扱金融機関に啓発ポスター・卓上のぼりの設置を依頼 ③検針時の普及活動	0.10人	0.00人	74.00%		72.54%									
期間	H29~	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	①47,063戸 ②123,989戸	R2目標	R2実績	新規契約者の口座振替割合が低いため、上半期に新規契約した納付書払いのお客様を対象に“ところざわの水”紙パックを抽選景品として個別通知を送付した。結果は、前年度実績より微増したことから一定の効果はあったと考えられるが、目標値には達していない。個別通知による効果を検証しつつ、更に効果的な方法を検討する必要がある。	事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み	どのように貢献したか	人流の削減とペーパーレスに貢献した					
		0.10人	0.00人		R3目標			評価者	窓口サービス課長 細田 和彦						
		817千円				73.51%									
上下水道局総務課	実施計画ランク	事業の種類別	R1予算現額	R1決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		-	R2年度は新型コロナウイルス感染症対策で6月1日まで学校が閉鎖され、その後も分割登校などの実施により、さらに授業の遅れが生じることが見込まれ、出前教室事業実施への小学校の協力を求めることが難しいこと、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないことから、出前教室事業を中止した。	R2年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに	10. 人や国の不平等をなくそう		
	優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	30千円	7千円	①実施校数(市内小学校数) ②児童の満足度・理解度	①出前教室実施校数(令和2年度まで) ②出前教室を受けた児童の満足度・理解度(令和3年度から)	R2目標値が未達成の理由・分析	R2年度に改善した点							
	根拠法令	特になし	R2予算現額	R2決算額(見込み)							30千円			0千円	事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み
	出前教室実施事業	事業の具体的な内容及び目的	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	実績	R1目標	R1実績	R2目標値が未達成の理由・分析			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み				
	水道及び下水道の理解を深めてもらうとともに、生活に欠かせない水が限りある資源であることや形を変えながら陸・海・空を循環していること(水の循環)などを知ることにより、水の大切さに気付く、さらには地球の環境保全に対する意識を高めてもらうことを目的とし、市内の小学校に上下水道局職員を派遣し、啓発用パンフレット「所沢の水道と下水道」等を使用して、上下水道に関する出前教室を行う。	0.68人	0.00人	15校以上		18校									
期間	H28~	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	①0校(32校) ②-	R2目標	R2実績	R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、出前教室事業を中止したため。	事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み	どのように貢献したか						
		5,652千円	0.00人		R3目標			評価者	総務課長 山下 哲						
		0.22人	0.00人												
		1,797千円				児童の満足度・理解度各80%以上									
給水管理課	実施計画ランク	事業の種類別	R1予算現額	R1決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	渇水時や災害時などの水源としても活用できるよう、取水井の清掃及び機能診断を行うとともに、取水井の機能維持及び水質保全のため、適正揚水量で運用する	R2年度に改善した点	6. 安全な水とトイレを世界中に	13. 気候変動に具体的な対策を		
	優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	9,592千円	9,130千円	①取水井の保全	地下水の揚水量	R2目標値が未達成の理由・分析	R2年度に改善した点							
	根拠法令	水道法	R2予算現額	R2決算額(見込み)							11,550千円			11,550千円	点検・清掃の結果を、取水井の修繕実施や掘替え方針の検討に活用した。
	取水井保全事業	事業の具体的な内容及び目的	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	実績	R1目標	R1実績	R2目標値が未達成の理由・分析			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み				
	取水井(35箇所)の清掃及び機能診断を毎年2か所実施する。取水井の機能維持及び水質保全のため揚水量10,000m <sup>3</sup> /日で運用する。	1.13人	0.00人	350万m <sup>3</sup>		333万m <sup>3</sup>									
期間	H5~	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	①428万m <sup>3</sup>	R2目標	R2実績	目標達成済	事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み	どのように貢献したか	市内35か所ある井戸は、削井後約40年を経過しているものが多く、今後も計画的に事業を実施し、取水井の保全に努めていく。	安全な水道水の供給と、非常時を見据えた自己水源の確保				
		9,393千円	0.00人		R3目標			評価者	給水管理課長 村田 孝之						
		1.10人	0.00人												
		8,985千円													

